

移植、凍結の基準について

保険診療での胚移植は、39歳以下の方は6回まで、40歳以上43歳未満の方は3回までとなります。このため、妊娠率の高い卵を選び取ることは非常に重要となります。当院では、以下の方法で移植、凍結を実施しております。不明な点や質問事項がありましたら、医師までご確認をお願いします。

☆ 39歳以下の方には、初回採卵では基本的に下記①または②をお勧めします。40歳以上43歳未満の方には、初回採卵では基本的に下記③または④をお勧めします。2回目以降の採卵では、初回採卵の結果を見て、移植、凍結方法を提案します。

- ① 全凍結パターンA：妊娠率の高い胚盤胞のみを凍結する方法です。Day.5で良好胚盤胞になれば、これを凍結します。Day.5で良好胚盤胞になっていないものはDay.6へ培養し、良好胚盤胞になれば凍結します。Day.6で良好胚盤胞になっていないものは凍結を行いません。
- ② 全凍結パターンB：妊娠率の高い胚盤胞を凍結しますが、そういった胚盤胞ができなかったときに、それより妊娠率がすこし低いものでもいくつか凍結しておく方法です。Day.5で良好胚盤胞になれば、これを凍結します。Day.5で良好胚盤胞がない場合、良好でない胚盤胞でも2個まで凍結を行います。それ以外はDay.6へ培養し、良好胚盤胞になれば凍結します。Day.6で良好胚盤胞になっていないものは凍結を行いません。
- ③ 全凍結パターンC：そこそこの妊娠率がある胚盤胞は全て凍結する方法です。Day.5で胚盤胞になれば、これを凍結します。Day.5で胚盤胞になっていなければ、Day.6へ培養し、良好胚盤胞になれば凍結を行います。Day.6で良好胚盤胞になっていないものは凍結を行いません。

- ④ 全凍結パターンD：そこそこの妊娠率がある胚盤胞は全て凍結する方法ですが、そういった胚盤胞ができなかったときに、妊娠率の低いものでも凍結しておく方法です。Day.5で胚盤胞になれば、これを凍結します。Day.5で胚盤胞になっていなければ、Day.6へ培養し、良好胚盤胞になれば凍結を行います。Day.5で胚盤胞凍結ができていない場合、Day.6で1個だけ、胚盤胞凍結を行います。Day.6で胚盤胞になっていなければ凍結は行いません。
- ⑤ 全凍結パターンE：妊娠率が低い胚であっても、胚盤胞になれば全て凍結する方法です。Day.5で胚盤胞になれば、これを凍結します。Day.5で胚盤胞になっていなければ、Day.6へ培養し、胚盤胞になれば凍結を行います。Day.6で胚盤胞になっていなければ凍結は行いません。
- ⑥ 全凍結パターンF：初期胚で凍結を行う方法です。胚盤胞ができにくい方などにお勧めします。Day.2またはDay.3で基準を満たす初期胚（Day.2の場合4cell G3以上、Day.3の場合7cell G3以上）をいくつか凍結します。個数は相談の上、決定します。基準を満たさない場合は継続培養し、Day.5またはDay.6で胚盤胞になれば凍結します。
- ⑦ Fresh-ETパターンA：Day.2、Day.3初期胚の新鮮胚移植を行います。移植しなかった胚は、上記の凍結パターンA～Fのいずれかで凍結を行います（移植当日に相談可）。
- ⑧ Fresh-ETパターンB：胚盤胞の新鮮胚移植を行います。Day.5胚盤胞の新鮮胚移植を行います。移植しなかった胚は、上記の凍結パターンA～Eのいずれかで凍結を行います（移植当日に相談可）。Day.6での移植は行いません。
- ※ 基本的に胚盤胞凍結、凍結融解胚移植をお勧めします。
- ※ 上記以外の方法をご希望の場合はご相談ください。
- ※ 良好胚盤胞の基準は、ガードナー分類でグレード3BB以上となります。
- ※ 正常受精と判断できない場合、基準を満たしていても移植、凍結を実施しないことがあります。
- ※ 単一胚移植が基本となることと保険での移植回数より、凍結の上限は、39歳以下の方は6個、40歳以上43歳未満の方は3個とさせていただきます。